

DASCモデル事業 説明資料

平成30年11月
岡山市医療政策推進課

デイサービス改善インセンティブ事業の概要

5つの指標で、ストラクチャー・プロセスを評価。評価指標を達成した事業所にはアウトカム評価を実施し、上位事業所に奨励金を付与。また、DASCモデル事業で、認知症の早期発見・早期対応に努める。



説明会を実施

今年度は案内分を持ってかえさせていただきます。

参加...

H29=158事業所
H28=164事業所
H27=153事業所
H26=151事業所

- 評価指標の収集(H29.12時点)
- 調査結果から、評価指標のベンチマークの達成(3つ以上)の可否状況で評価する

H29=62事業所、H28=72事業所、H27=72事業所、
H26=60事業所

評価指標	
1	外部研修への参加状況
2	医療機関との積極的連携(DASCモデル事業)
3	認知症高齢者の受け入れ人数
4	機能訓練指導員の常勤換算人数
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

H30.8

**DASC調査
(1回目)**

H30.12

**DASC調査
(2回目)**

H30.6

**アウトカム調査
(1回目)**

H30.12

**アウトカム調査
(2回目)**

指標達成事業所のうち、日常生活機能評価の維持・改善度で評価

**【指標達成事業所かつ
アウトカム評価上位】**
表彰 + 奨励金 + 情報公開
H29・28=10事業所、H27=12事業所

【指標達成事業所】
表彰 + 情報公開

バーセルインデックス (Barthel Index)

	点数	質問内容	得点
1 食事	10	自立、自動具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	
	5	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	
	0	全介助	
2 車椅子からベッドへの移動	15	自立、フレイキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	
	10	軽度の部分介助または監視を要する	
	5	座ることは可能であるがほぼ全介助	
3 整容	5	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	
	0	部分介助または不可能	
	0	部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10	自立(衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む)	
	5	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	
	0	全介助または不可能	
5 入浴	5	自立	
	0	部分介助または不可能	
	0	部分介助または不可能	
6 歩行	15	45M以上の歩行、補装具(車椅子、歩行器は除く)の使用の有無は問わす	
	10	45M以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	
	5	歩行不能の場合、車椅子にて45M以上の操作可能	
7 階段昇降	10	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	
	5	介助または監視を要する	
	0	不能	
8 着替え	10	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	
	5	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	
	0	上記以外	
9 排便コントロール	10	失禁なし、洗滌、坐薬の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、洗滌、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
10 排尿コントロール	10	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
合計点 (/100点)			

	評価指標	考え方	ベンチマーク
1	外部研修への参加状況 (延べ人数/職員数(常勤換算人数))	外部研修の参加人数(対象研修は次のとおり) ・キャリア段位アセッサー講習研修 ・認知症介護指導者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護実践者研修 ・岡山市主催 介護職員スキルアップ研修(全5回予定)	「評価対象事業所の平均値以上」とする予定
2	医療機関との積極的連携 (DASCモデル事業への参加の有無)	DASCモデル事業に参加しているかどうか	
3	認知症高齢者の受け入れ人数 (実人数/利用定員)	岡山市が抽出した「日常生活自立度Ⅲ以上の利用者」の人数	
4	機能訓練指導員の常勤換算人数 (常勤換算人数/職員数(常勤換算人数))	機能訓練指導員の常勤換算人数 (従業員勤務一覧表から算出)	
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 (常勤換算人数/職員数(常勤換算人数))	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 (従業員勤務一覧表から算出)	

- デイサービスを利用し、認知症の方がどの程度いるのか把握する
- 受診につなげることで、認知症の早期発見・早期治療に効果があるのかを調査する

